

高齢者をとりまくコミュニティの実態 (鹿児島県笠沙町の事例)
その2 - 社会参加と近隣関係

正会員 ○ 古川 恵子²⁾
同 友清 貴和¹⁾
同 櫻井 亜衣³⁾

1. はじめに

前報の概要に続いて、高齢者の社会参加状況、友人づきあい、近所、集落内外の人とのつきあいの程度や内容から日常生活の状況を探り、高齢者の生活を支える要因を考察する。

2. 調査結果と分析

2-1. 社会参加状況

全体では、「講・お墓・お寺参りなど」への参加が多く(63.7%)、「自治会・婦人会」「農・漁・商工などの組合」と続く。「講・お墓・」は、年齢が高くなるほど、居住年数が長くなるほど、男性より女性が大きい割合で参加している。集落別にみると、全体で参加率の最も高い「講・お墓・」に多く参加しているのは、海に面した19, 17, 15と、町役場のある町中心部とは野間岳で隔てられている25, 24である。年齢別にみると、40~54歳は「自治会・婦人会」への参加が最も多く約半数が参加している。55歳以上は年齢が高くなるほど「講・お墓・」が増えて、他の集まりは減っている。なお、老人会への参加率は65~74歳の19.9%から75歳以上の41%へ急増している。男性が女性よりも多く参加するのは「農業・漁、商工・」

である。なお、参加する集まりにデイサービスと答えた人が20人余りいる。

2-2. 親しい友人とのつきあい

親しい友人数は男女とも5人以上というのが最も多く、親しい友人とのつきあいの場合は、前項同様、「講・お墓・お寺参りなど」が多く「自治会・婦人会」が続く。

集落別にみると、「講・お墓・」は、19, 17, 18, 24に多い。「自治会・婦人会」は、17, 20の集落が目立って多い。年齢別にみると、40~54歳は「趣味の会」と「運動・健康づくりの会」が多く、55歳以上になると「講・お墓・」が最も多く、加齢とともに割合が高くなる。逆に、「趣味の会」、「教育・学習の会」、「運動・健康づくりの会」は減っていく。性別にみると「老人会」に参加する女性の数は男性の3.7倍になる。

2-3. 近所づきあい

全体の90%が「親しいつきあい」か「世間並みのつきあい」をしており、また女性の方が親しい付き合いをする人が10%多い。居住年数が長くなるほど親しいつきあいが多くなる。集落別にみると、17は親しいつきあいをしている人が76.9%と最も多く、19がこれに続く。そし

【表1】 集落別近所づきあいの内容

	日用品の貸し借り	おすそわけ	近所の子どもの世話	近所の年寄りの世話	病気などの世話	近所の留守番	心配ごとの相談	世間話	冠婚葬祭の手伝い	近隣の掃除	買い物などの手伝い	運動・健康づくり	趣味の会
全体	16.2	64.1	4.2	11.2	15	6.4	20.8	82.5	61.6	35.6	12	14	7.3
1 市崎木場	18.2	54.5	12.1	24.2	57.6	3	39.4	81.8	69.7	33.3	15.2	42.4	9.1
2 松木場	13.5	63.5	0	23.1	44.2	9.6	28.8	71.2	73.1	21.2	19.2	59.6	17.3
3 笠石	24.6	69.6	1.4	23.2	10.1	0	13	85.5	65.2	47.8	2.9	42	4.3
4 山野	13.5	29.7	8.1	13.5	13.5	8.1	10.8	81.1	91.9	24.3	13.5	45.9	8.1
5 新田	22.7	56.1	7.6	13.6	13.6	4.5	25.8	87.9	54.5	21.2	10.6	19.7	18.2
6 並木	13.5	43.2	13.5	5.4	2.7	2.7	24.3	81.1	56.8	51.4	2.7	13.5	0
7 浜田	12.5	50	0	12.5	0	0	37.5	75	62.5	50	0	62.5	0
8 清水	3.3	36.1	0	4.9	9.8	4.9	19.7	88.5	42.6	18	6.6	6.6	3.3
9 笠松	17.9	50	0	8.9	19.6	1.8	16.1	69.6	39.3	10.7	5.4	5.4	7.1
10 上村	19.3	78.9	1.8	10.5	14	3.5	8.8	73.7	59.6	22.8	15.8	24.6	10.5
11 小浦	5.7	77	3.5	5.7	7.8	1.7	26.5	87.4	83.9	11.7	8.7	0.9	5.2
12 椎木	12	71.7	3.3	12	15.2	5.4	20.7	79.3	80.4	50	7.6	20.7	9.8
13 黒瀬	18.3	58.2	2.9	9.5	14.7	7	19.4	78	41.8	19.8	12.5	1.5	2.9
14 仁王崎	8	77	9.2	8	10.3	3.4	19.5	88.5	59.8	54	6.9	5.7	13.8
15 片浦	20.9	84.7	5.1	12.8	17.3	14.3	21.9	86.2	69.4	60.7	18.4	22.4	9.7
16 大当	14.1	57.7	2.8	9.2	5.6	9.9	16.2	83.1	54.9	53.5	11.3	17.6	9.9
17 高崎山	15.4	46.2	0	15.4	23.1	23.1	15.4	100	53.8	76.9	23.1	15.4	0
18 谷山	73.1	82.3	7.7	19.2	97.7	19.2	83.6	73.1	80.8	61.5	42.3	11.5	0
19 小崎	58.3	75	0	8.3	50	25	16.7	83.3	100	83.3	33.3	8.3	0
20 魚路	39.1	73.9	0	13	4.3	0	13	82.6	65.2	47.8	28.1	0	21.7
21 山神	33.3	60.6	12.1	12.1	30.3	0	33.3	69.7	69.7	51.5	21.2	6.1	9.1
22 野間池	13.2	47.9	4.9	9.7	6.3	6.3	12.5	79.9	79.9	31.9	5.6	4.9	6.9
23 峠	22.6	67	8.5	9.4	22.6	8.5	22.6	90.6	90.6	40.6	16	13.2	5.7
24 太郎木場	4.6	50.8	0	16.9	15.4	6.2	20	80	80	44.6	12.3	12.3	3.1
25 姥	0	66.7	0	22.2	3.7	0	18.5	88.9	88.9	37	14.8	3.7	0

A Study on the Community of the Elderly people.(using Kasasa-cho in Kagoshima prefecture as a Model)No.2
A community participation and neighbourhood relation.

FURUKAWA Keiko, TOMOKIYO Takakazu and SAKURAI Ai

て両集落とも、親しいつきあいと世間並みを合わせると100%になる。17は集落の中で唯一40～54歳が0人で、高齢者の割合が84.6%である。

2-4. 近所づきあいの内容

全体では、「世間話」が最も多く(82.5%)、「おすそわけ」、「冠婚葬祭の手伝い」(61.6%)、「近隣の掃除」と続く。「世間話」をする割合は、女性が男性より多い。

集落別に、近所づきあいの特徴がみられる。その内容は【表2】のとおりである。近所づきあいをさまざまな内容で活発に行っているのは、18, 19, 15, 1, 2であるが、集落の多くの人が行っていることを表す最大値を、多くの項目にわたって示すのは18と19である。

日常的なつきあいとしての世間話、おすそわけ、近隣の掃除、心配ごとの相談、日用品の貸し借り、買い物などの手伝いと、非日常的な冠婚葬祭の手伝いがあるが、これらの内容についても、18と19はよくなされている。

年齢別にみると、「世間話」をする人の割合は年齢が高くなるとともに大きくなっている。75歳以上は91.1%と格段に大きい。65～74歳の「ひとり暮らし」の高齢者になるとさらに93.7%と高くなる。

2-5. 話し相手と話す頻度

全体では、「店の人」と話をする人が多い。「よく話をする」人と「時々話をする」人を加えると87%になる。次が「医師・看護婦」で、「郵便配達の人」、「お寺」と続く。最も多くの人と話し相手とする「店の人」とよく話をする割合の高い集落は、25, 24, 17である。また、「医師・看護婦」とよく話をする集落は、17(90%)と25(70.4%)である。高齢者が「よく話しをする相手」は「店の人」(40%)、「医師・看護婦」(39%)、「郵便配達の人」(18%)である。

【表2】 話し相手と話す頻度 (単位:%)

	よく話をする	時々話をする	ほとんどしない
郵便配達の人	17.4(68.5)	55.9(58.0)	26.8(66.5)
新聞・牛乳配達の人	10.8(53.8)	32.1(53.8)	57.1(68.7)
ヤクルト・ダスキン配達の人	10.9(52.6)	27.1(49.2)	62(65.7)
集金(電気・ガス・水道等)の人	14.1(58.8)	45.4(58.2)	40(67.9)
保険・銀行の外交員	12.9(60.2)	32.7(51.5)	54.4(68.1)
店の人	46.2(60.9)	40.9(59.1)	12.9(71.5)
移動販売の人	14.1(66.8)	27.2(59.5)	58.7(63.4)
医師・看護婦	37.2(76.6)	40.6(58.1)	22.2(52.0)
お寺	15.2(72.2)	43.9(66.9)	40.9(58.6)
民生委員	17.9(75.9)	31.5(68.9)	50.6(57.8)
その他	12.3(36.0)	16.7(52.9)	71.1(37.9)

()内の数値は、高齢者の割合

2-6. 外出行動と近隣関係

外出方法と目的についてみる。「徒歩」で出かける目的は、「田畑や海などの仕事」が最も多く(48.9%)、「子供や親類や友人宅」(43.3%)が続く。75歳以上では、「買い物」、「子ども・親類・友人宅」が最も多い。徒歩で行ける範囲に知り合いが多いことが分かる。「自転車・バイク」

は「買い物」(7.8%)や「銀行・郵便局」へ行くのによく使われるが、年齢で見ると、75歳未満は、「買い物」に行くときが最も多く、75歳以上は銀行・郵便局行きに使われている。「自動車」は病院へ行くため(40.4%)と「買い物」によく利用されている。「バス」は「病院」へ行くために利用する人(20.5%)が圧倒的に多い。

自動車を自分で運転する人は多い。一方、「近所の人」に乗せてもらう人が、自動車利用者の11.3%いる。日ごろの近隣関係の親しさをうかがわせる。近所づきあいの関係をみると、「自分」や「同居の家族」が運転する人や「タクシーに乗る」人よりも、「近所の人に乗せてもらう」人の方が、「世間並み」よりも「親しいつきあい」(54.0%)をよくしている人が多い。

集落別にみると、乗せてもらう人の割合が高いのは、25(42.3%)で、あと24(29.1%)、16(28.2%)と続く。

タクシー利用者が多いのは17, 20, 25である。

外出頻度の高い集落は17, 7, 20である。

3. まとめ

以上のことから、笠沙町における40歳以上の人々の地域社会におけるつきあいは、①社会参加の状況については、「講・お墓・お寺参り」への参加が多いが、居住者の多くが参加している集落では、近所づきあひもさかんに行われている。②年齢が高くなり、居住年数が長くなるに伴い、老人会への参加率が増え、また自治会・婦人会への参加から講・お墓参り・お寺などへの参加率が増えること、友人づきあひの場もまた同様であることがわかった。③親しい友人数が5人以上という人が最も多く、多様なつきあひが想定できる。④近所づきあひは全体的に親しくされているが、特に多面的に親しいつきあひをしている集落がある。⑤つきあひの内容は世間話、おすそわけが多く、冠婚葬祭の手伝いもよくされている。集落によって、つきあひ方の違いがあることがわかったが、その理由を探る必要がある。また、多くの人と話の相手を店の人と答えた理由についても同様である。特に⑥「近所の人」が運転する自動車に乗せてもらう人がある程度いることがわかったが、その人たちの日ごろのつきあひや生活についても検討していきたい。今後、社会活動や人々の関わり方と、施設配置、リアス式海岸沿岸部や山間地という地理的な関連を全体的に検討する必要がある。

最後に、調査にご協力いただいた笠沙町の方々、並びに笠沙町役場の建設課と住民課の方々には厚く御礼申し上げます。

- 〈参考文献〉 1. 総務庁：高齢社会白書(平成10年版)、平成10年
2. 笠沙町：町勢要覧平成10年度版、1998年
3. 鹿児島県統計課

2) 鹿児島女子短期大学 教授

Prof., Kagoshima Woman's Junior College.

1) 鹿児島大学工学部建築学科 教授・工博

Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kagoshima Univ., Dr. Eng.

3) 鹿児島大学大学院修士課程

Graduate School, Kagoshima Univ.